佐原の町並み かわら版

第２４号
平成11年12月
発行　小野川と佐原の町並みを考える会
佐原町並み保存会

歴史的建物の活用に向けて

もうすぐ迎える二〇〇〇年、佐原の歴史的建造物は、文化財としての貴重価値が益々高まります。官民一体となった保存運動の成果は現れていますが、年々増えている観光客への重要な観光資源としての積極的な活用が課題となっています。そのため、十一月三日、正上穀倉に於いて「町並みフォーラム」が開催されました。

フォーラムでは、まず大河直躬千葉大名誉教授の講演が行われ、保存から活用ということで、各地の活用事例をスライドを交えてのお話でした。「使い続け、将来に伝えることが活用であり、単独の建物活用だけでは、十分な効果を上げることは困難で、建物活用を相互に関連付け、ネットワーク化を図る。」家並みがつながることの重要性を強調されました。

事例を発表するおかみさん方

次に、五人のおかみさん方から、成田と佐原での町家等の活用事例が紹介されました。

永澤幸子さん

「シャローム・ナカトラ」さんは、資材置場であった蔵を活用し、「趣味の店」として、最初に観光客のための店を開店しました。

並木佳世子さん

「中村屋商店」さんは、自分の裁縫技術を生かし、生業の畳表を使った小物や手作りエプロン、巾着などオリジナル商品を開発するなど商品の工夫をしています。

辻 洋子さん

「植田屋荒物店」さんは、これまでの荒物に加えて、質の高い商品、特に竹細工製品を多種扱うなど生業の拡大に努めています。

「並木仲之助商店」さんは、外観を創建当時に復元し、内部も帳場の座売和紙とお香の小売を新たに展開しています。

並木昭子さん

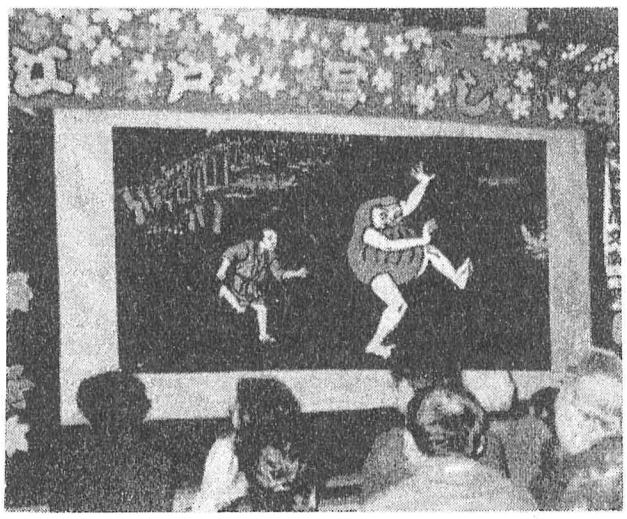
諸岡咲子さん

「三芳家」さん（成田市）は、店舗の修理時に裏庭をオープンカフェに整備し、観光客向けの土産物店と喫茶を兼ねた経営転換を図りました。

伝統的な建物を活用して、特徴ある店舗で商売を始めたおかみさん方のアイデアと努力が報告され、参加の方々に大変好評でした。是非、お店をご覧になって下さい。

最後に「劇団みんわ座」により、「江戸写し絵」の上演。写し絵は、享和三年、三笑亭都楽が考案し、幻燈器の照明を光源に絵を映し、からくり仕掛けで動くもので、江戸庶民に喜ばれた。

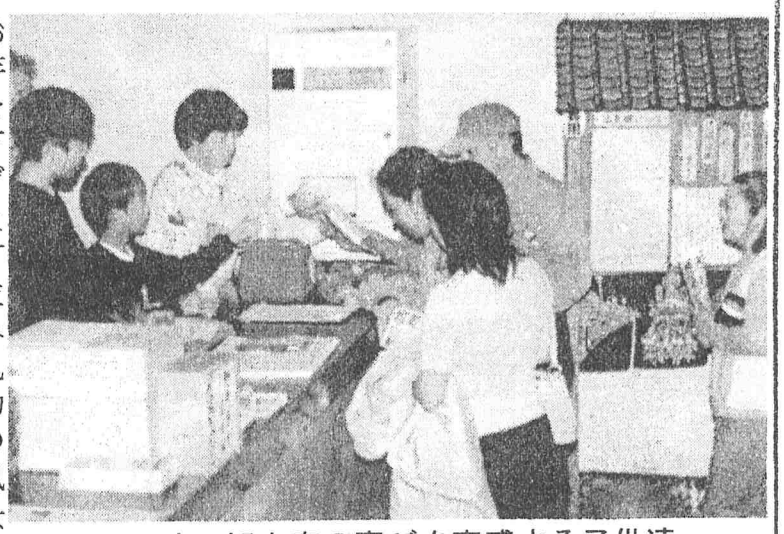
「だるま夜噺」が上映され、掛軸から抜け出しただるまの面白い写し絵に、参加者は江戸庶民の気分になり、観賞しました。


江戸庶民の情緒に浸ったからくり仕掛の写し絵

私達の作った“お芋”をどうぞ
―今年も観光客に喜ばれた福田小のお芋―

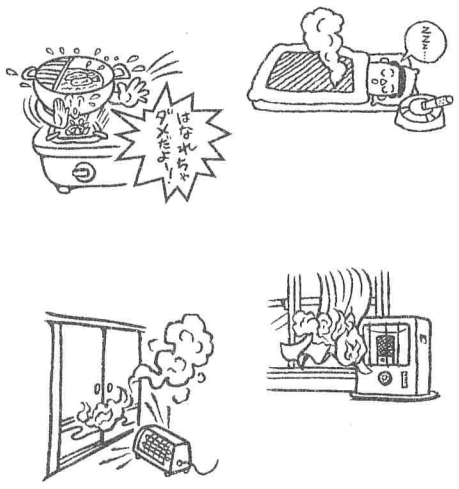
十一月六日(土)、七日(日)の両日、福田小学校の児童の皆さんが、自分達で作った「さつまいも」を三菱館と忠敬旧宅前の川沿いで、町並みを訪れた観光客へのお土産に、無料サービスしました。

昨年は、考える会の会員が三菱館で配布し、その御礼と感激の手紙がたくさん学校に届いたので、今年は観光客と対話をしながら、自分達で直接、手渡しをしました。御夫婦で来た奥さんは、「今日佐原へ来て運がよかったわ。」とお芋の袋を大事そうに抱え、嬉しそうな顔。家族連れの方々、若いカップルなど、お芋を下げた町並み見物の風景が見られるなど、用意した三〇〇個の袋は、喜ばれながら各地に旅立って行きました。丹精込めて作ったお芋への感想が、今年もたくさん、福田小へ届くことでしょう。


芋を手渡し観光客の喜びを実感する子供達

防災講演会

去る十一月十七日、自治省消防庁予防課の荻野剛氏を講師に迎え、「防災講演会」が佐原市保健センターで開催。講演会には、保存地区内の住民や考える会会員、消防、市関係者など約五十名が参加。

講演では、私達の努力により予防できる火災についての話があり、年間の火災件数や出火などの切実な話題に参加者は耳を傾けていました。出火原因として、家庭での火の不始末が大変多いことを実感しました。

保存地区は、歴史的建物が密集し、災害に対し脆弱なエリアです。先祖代々引き継いだ財産を子孫に伝えるためにも、我々一人一人が防災への知識を高め、日頃の準備を心掛けなければなりません。